

## 「竹」に対する意識についてのアンケート調査

—京都・大阪地区の女子短大生を対象として—

細川 健次\*・南出 隆久\*\*・柴田 昌三\*\*\*  
国松 豊#・本城 尚正##

### Questionnaire Investigation of Conscious Research on Bamboo —Investigations for Women's Junior College Students in Kyoto and Osaka Area—

KENJI HOSOKAWA\*, TAKAHISA MINAMIDE\*\*, SHOZO SHIBATA\*\*\*  
YUTAKA KUNIMATSU# and TAKAAKI HONJO##

今回の調査は、京都および大阪の女子短大生を対象として、より広い範囲の若い世代の女性の、竹に対する意識の把握を目指した。対象をしぼったことで、前回の調査とは少し異なる興味深い結果が得られた。

一般的には、竹というものの存在が、我々の生活の中で疎遠なものになっていることは否めない。この傾向が、特に若い女性層で、顕著なことが今回の調査で類推された。しかも、無関心派が比較的多い傾向がある。このことから今後の竹の在り方を考えたとき、まず彼女らの関心を引きつける策が必要になると思われる。そのためには、身近な植物としての竹の位置付けをより明確にできるような竹林の整備と保全、若い世代のニーズに応じた竹製品の開発が必要となろう。また、全教育期間を通じ、竹についての教育の機会を多く設けることが今後の課題であろう。

#### 1. はじめに

近年、多くの自然とともに急速に姿を消しつつある竹は、日本文化の根源をになってきた植物であるといっても過言ではない。人口増加と石油製品の利用の増加に伴い、我が国本来の素地が急激に失われていく現在、消失の危機にある竹の景観と、それとともに衰退の道をたどりかねない工芸文化あるいは食文化を、

今まで以上に維持発展させていくためには、何らかの新しい打開策を打ち出さなければならない。そのための一手段として、現在日本人が竹に関してどのような意識を抱いているかの把握は、まず必要な資料と考えられる。今回の報告は、以上のような主旨のもとに行っている、「竹」に対する一連の意識調査のうち、第二回の調査結果に関するものである。第一回の調査は1989

---

\* 生活科学部応用化学講座

Laboratory of Applied Chemistry, Faculty of Living Science, Kyoto Prefectural University

\*\* 生活科学部食物学科調理・保蔵学講座

Laboratory of Cookery Science, Department of Food Science and Nutrition, Faculty of Living Science, Kyoto Prefectural University

\*\*\* 京都大学農学部林学科造園学研究室

Laboratory of Landscape Architecture, Department of Forestry, Faculty of Agriculture, Kyoto University

# 農学部畜産学研究室

Laboratory of Animal Science, Faculty of Agriculture, Kyoto Prefectural University

## 農学部附属演習林研究室

Experimental Forest Station, Faculty of Agriculture, Kyoto Prefectural University

年度に一般学部学生を対象に行ったり。そこでは、現在の若者の意識をそれなりに把握することはできたが、より一般的な人々の意識の把握の必要性が認められた。

今回の調査では、京都および大阪の女子短大生を対象として、より広い範囲の若い世代の女性の、竹に対する意識の把握を目指した。対象をしぼったことで、前回の調査とは少し異なる興味深い結果が得られた。

2. 調査の概要

(1) 調査対象

今回の調査対象者は京都および大阪にある以下の短期大学部および短期大学の女子学生である。

- ① 京都府立大学女子短期大学部国語科一回生、44名
- ② 京都府立大学 同上 生活文化科一回生、44名
- ③ 京都府立大学 同上 被服科二回生、33名
- ④ 光華女子短期大学食物科二回生、128名

表1. 被験者属性のクロス集計(実数)(性別はすべて女性、年齢はすべて18~22才の学生である)

|           |            | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) | (6) | (7) | (8) | (9) | (10) | (11) | (12) | (13) | (14) | (15) | (16) | (17) | (18) |
|-----------|------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 所 属       | 府大國語 (1)   | 44  |     |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 府大生文 (2)   |     | 43  |     |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 府大被服 (3)   |     |     | 33  |     |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 光華食物 (4)   |     |     |     | 129 |     |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 薫 英 (5)    |     |     |     |     | 49  |     |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 居住歴       | 5年未満 (6)   | 16  | 15  | 9   | 28  | 7   | 75  |     |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 10年未満 (7)  | 5   | 3   | 5   | 14  | 8   |     | 35  |     |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 20年未満 (8)  | 23  | 25  | 15  | 54  | 34  |     |     | 151 |     |      |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 20年以上 (9)  | 0   | 0   | 4   | 33  | 0   |     |     |     |     | 37   |      |      |      |      |      |      |      |      |
| 出身地       | 関東以北 (10)  | 1   | 1   | 2   | 8   | 2   | 8   | 3   | 2   | 1   | 14   |      |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 中 部 (11)   | 4   | 1   | 4   | 8   | 0   | 14  | 0   | 3   | 0   |      | 17   |      |      |      |      |      |      |      |
|           | 近 畿 (12)   | 18  | 22  | 15  | 67  | 37  | 28  | 22  | 88  | 21  |      |      | 159  |      |      |      |      |      |      |
|           | 京 都 府 (13) | 14  | 13  | 12  | 38  | 4   | 9   | 7   | 50  | 15  |      |      |      | 81   |      |      |      |      |      |
| 中国以西 (14) | 7          | 6   | 0   | 8   | 6   | 16  | 3   | 8   | 0   |     |      |      |      | 27   |      |      |      |      |      |
| 家 族 数     | 1~2人 (15)  | 3   | 2   | 1   | 7   | 0   | 11  | 0   | 0   | 2   | 6    | 0    | 3    | 2    | 2    | 13   |      |      |      |
|           | 3~4人 (16)  | 23  | 19  | 19  | 65  | 32  | 29  | 23  | 90  | 16  | 7    | 5    | 88   | 46   | 12   |      | 158  |      |      |
|           | 5~6人 (17)  | 14  | 20  | 11  | 51  | 15  | 29  | 12  | 54  | 16  | 1    | 8    | 62   | 28   | 12   |      |      | 111  |      |
|           | 7人以上 (18)  | 4   | 2   | 2   | 6   | 2   | 6   | 0   | 7   | 3   | 0    | 4    | 6    | 5    | 1    |      |      |      | 16   |

表2. 回答者の属性の平均値

|         | 府大國語 | 府大生文 | 府大被服 | 光華食物 | 薫 英  | 全 体  |
|---------|------|------|------|------|------|------|
| 年 齢(才)  | 18.7 | 18.8 | 19.7 | 19.7 | 18.6 | 19.2 |
| 居住年数(年) | 9.8  | 10.5 | 10.6 | 12.9 | 11.9 | 11.7 |
| 家族人数(人) | 4.5  | 4.7  | 4.4  | 4.6  | 4.5  | 4.5  |
| うち男     | 1.6  | 2.0  | 1.5  | 1.8  | 1.8  | 1.7  |
| うち女     | 2.9  | 2.8  | 2.9  | 2.8  | 2.7  | 2.8  |

⑤ 大阪薫英女子短期大学食物科一回生、49名

以上、合計 298名

(2) 調査方法

調査は、授業時間を利用して行い、その場で回収したものである。そのため、回収率はほぼ100%である。調査期間は1990年6月から11月である。

回答者の属性は表1および表2に示したとおりである。平均年齢は19.2才で、学年を特定して調査を行っ

たことから、バラつきはほとんどない。居住年数は平均11.7年で、これも大きなバラつきはない。出身地は京都府あるいは近畿地方の回答者が全体の8割を越えており、居住年数と合せて考えると、現在の家に小学生時代に住むようになり、現在は自宅から大学に通っている学生が多いことがわかる。家族人数は平均すると4.5人で、その構成は女性が男性よりもほぼ1人多くなっている。前回の調査結果に比べて家族人数が平

表3. 「竹と聞いて何を思い出すか」に対する回答 (%)

|      | 竹 林  | 竹細工  | 筍    | その他  | その他の自由回答 |
|------|------|------|------|------|----------|
| 府大國語 | 79.6 | 9.1  | 9.1  | 2.3  | かぐや姫、竹馬  |
| 府大生文 | 69.8 | 14.0 | 11.6 | 4.7  |          |
| 府大被服 | 69.7 | 9.1  | 6.1  | 15.2 |          |
| 光華食物 | 60.5 | 14.7 | 21.7 | 3.1  |          |
| 薫 英  | 61.2 | 10.2 | 28.6 | 0.0  |          |
| 全 体  | 65.8 | 12.4 | 17.8 | 4.0  |          |

表4. 学校における竹に関する学習の経験の有無 (%)

|      | 有    | 無    |
|------|------|------|
| 府大國語 | 20.5 | 79.5 |
| 府大生文 | 16.3 | 83.7 |
| 府大被服 | 36.4 | 63.6 |
| 光華食物 | 16.3 | 83.7 |
| 薫 英  | 12.2 | 87.8 |
| 全 体  | 18.5 | 81.5 |

均してほぼ1人多くになっているのが特徴である。

以上のように、今回の調査の回答者は地元の出身で、現在の場所に小学生時代以後住んでおり、大学への通学は自宅から行っている、20才前の女性を中心であることがわかる。

### (3) 調査内容

調査用紙の設問内容は、前回の調査時と同じである。

大別すると、①回答者の属性に関する設問(6項目)、②竹林等の植物としての竹類に関する設問(9項目)、③竹製品および竹材に関する設問(8項目)、④食品としての筍に関する設問(10項目)になる。また、この他に、②、③、④では、各テーマに関するイメージ評価(各12、13、10項目)を行い、分析を行った。さらに全体で7項目のフリーアンサーのための設問も加えた。

## 3. 結果および考察

設問を開始するにあたって、まず最初に「竹と聞いて

て最初に連想するもの」と竹に関する学習経験について回答を求めた(表3および表4)。

竹と聞いて連想するものとしては、65.8%の回答者が竹林と答えた。竹林と答えた回答者は京都府立大学女子短期大学部(以下府短大とする)の学生で高くなっている。次いで多いのは筍と答えた回答者で、全体で17.8%であった。府短大以外の回答者でその比率は20%を越えており、特に薫英短大で高い比率となっている(表3)。

また、竹に関する学習経験については府短大被服科で比較的多いものの、全体平均では18.5%しか経験しておらず、非常に低い値となっている(表4)。

### (1) 竹林等の植物としての竹類に対する意識(表5~21)

竹林の景観あるいは存在に関するいくつかの質問およびイメージ分析のための質問を行った。また、植木としての利用に関する質問も設けた。以下に各設問についてその回答内容をまとめる。

表5. 所属別にみた竹林及び植物としての竹に関する設問に対する回答の比率(%)

|      | 竹林の眺め |     |         | 竹林での遊びの経験 |      | 京都と竹は縁があるか |      |         | 竹と笹ではどちらが好きか |      |      |      |
|------|-------|-----|---------|-----------|------|------------|------|---------|--------------|------|------|------|
|      | 好き    | 嫌い  | どちらでもない | 有         | 無    | 有          | 無    | 何とも思わない | 竹            | 笹    | 両方好き | 両方嫌い |
| 府大言語 | 84.1  | 2.3 | 13.6    | 43.2      | 56.8 | 58.1       | 4.7  | 37.2    | 53.5         | 14.0 | 32.6 | 0.0  |
| 府大生文 | 79.1  | 0.0 | 20.9    | 44.2      | 55.8 | 69.8       | 4.7  | 25.6    | 39.0         | 19.5 | 41.5 | 0.0  |
| 府大被服 | 84.8  | 9.1 | 6.1     | 48.5      | 51.5 | 63.6       | 9.1  | 27.3    | 54.6         | 9.1  | 33.3 | 3.1  |
| 光華食物 | 72.9  | 0.8 | 26.4    | 32.6      | 67.4 | 60.9       | 3.1  | 35.9    | 39.8         | 17.9 | 39.0 | 3.3  |
| 薫英   | 69.4  | 6.1 | 24.5    | 32.7      | 67.3 | 40.8       | 14.3 | 44.9    | 31.1         | 35.6 | 31.1 | 2.2  |
| 全体   | 76.2  | 2.7 | 21.1    | 37.6      | 62.4 | 58.8       | 6.1  | 35.1    | 42.1         | 19.3 | 36.5 | 2.1  |

a) 竹林の眺めについては76.2%が「好き」と回答している。その割合は府短大で有意に多く平均すると80%を越える。この値は前回の一般学生を対象とした調査の値とほぼ同じであるが、別に行った社会人を対象とした調査<sup>2)</sup>結果よりはかなり小さい値である。

b) 竹林での遊びの経験については37.6%が経験しており、府短大で高い比率となり、45%前後である。他の2校では低くなっている。府短大での値は前回の調査結果とほぼ同等であり、女性であるということが値が小さい理由とはいえない。

表6. 竹林でしたことのある事に対する回答(複数選択)の比率(%)

|      | 全体   | 府大言語 | 府大生文 | 府大被服 | 光華食物 | 薫英   |
|------|------|------|------|------|------|------|
| 筍掘り  | 34.9 | 29.6 | 53.5 | 36.4 | 31.8 | 30.6 |
| 竹伐り  | 5.7  | 9.1  | 9.3  | 6.1  | 1.6  | 10.2 |
| 落葉拾い | 10.4 | 6.8  | 9.3  | 18.2 | 9.3  | 12.2 |
| 虫取り  | 4.7  | 2.3  | 11.6 | 3.0  | 3.9  | 4.1  |
| 竹皮拾い | 4.0  | 6.8  | 7.0  | 3.0  | 2.3  | 4.1  |
| 雀取り  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  |
| その他* | 6.7  | 6.8  | 7.0  | 3.0  | 7.0  | 8.2  |
| 経験なし | 46.6 | 52.3 | 34.9 | 42.4 | 51.9 | 40.8 |

\*自由回答: 散歩、遊んだ、おにごっこ、かくれんぼ、探検ごっこ、きもだめし、笹舟作り、観賞、見る、絵を描いた、七夕の笹取り、点取り

c) 実際に竹林でしたことのあることの中で、多いのは「筍掘り」で34.9%が経験している。一方、最も割合が高かったのは「何もしたことがない」で46.6%であった。この値は社会人を対象とした女性の割合とほぼ同じである。このことから、対象がすべて女性であるということが理由の1つとして考えられ

る一方、竹林で何かをしたことがある女性の割合は年齢に関係なく、ある程度存在することがわかる。しかし、前回調査では「筍掘り」以外には「竹の皮拾い」や「竹伐り」の経験者が多かったのに対して、今回は「落ち葉拾い」の割合が高い等、いくつかの違いは認められる(表6)。

表7. 言伝えに関するフリーアンサー

|   |
|---|
| ○竹林<br>かぐや姫(竹取物語)(59人)、地震関係(安全、逃げ込み等)(16人)、<br>開花関係(100年に一度咲く、竹の花をみつけるということがある、<br>竹の花を見ると不幸なことが起こる、開花枯死)(各1人)<br>七夕(3人)、怖い話、一億円が埋まっている、雪が降るととても美しい、<br>エジソンが八幡の竹を使った、一つの根から全ての竹が生えている(各1人) |
| ○筍<br>食べ過ぎるといろいろな症状が出る(7人)、かぐや姫(竹取物語)(3人)、<br>一晩でよく伸びる、あくがきつい、なよたけ、<br>筍の皮に梅干を巻くと赤くなってくる(各1人)   |

d) 竹林についての言い伝えに関するフリーアンサーでは、「竹取物語(かぐや姫)」をあげた回答者が大半を占めた。これ以外には、「地震時に逃げ込み」とい

う内容を書いた回答者が多く、次いで、「開花」に関する言い伝え、をあげたものが多かった。(表7)。

表8. 近年の竹林の減少に対する知識と感想(%)

|      | 知識の有無 |      | 減少に対する感想 |         |      |       |
|------|-------|------|----------|---------|------|-------|
|      | 有     | 無    | 残すべき     | 何とも思わない | 仕方ない | 減らすべき |
| 府大国語 | 54.5  | 45.5 | 93.2     | 2.3     | 4.6  | 0.0   |
| 府大生文 | 39.5  | 60.5 | 93.0     | 2.3     | 4.7  | 0.0   |
| 府大被服 | 45.5  | 54.5 | 90.9     | 6.1     | 3.0  | 0.0   |
| 光華食物 | 49.6  | 50.4 | 87.6     | 7.0     | 5.4  | 0.0   |
| 薫英   | 45.8  | 54.2 | 81.6     | 14.3    | 4.1  | 0.0   |
| 全体   | 47.8  | 52.2 | 88.6     | 6.7     | 4.7  | 0.0   |

e) 竹林そのものの減少に関しては、47.8%が認知しているのみで、前回の一般学生対象の調査結果と同様に、その割合の低さは顕著である。これはこの世代の回答者の生活空間の中に竹林が介在していないことを示すと思われる。このことを如実に示しているのが、保護の必要性に関する回答で、88.6%が「残すべき」と回答している。この傾向は府短大で顕著である。これに対して、薫英短大等では「何とも思わない」回答者が14.3%と多く、無関心派も比較的多く存在することがわかる(表8)。

f) 京都という土地が竹との縁が深いと考える人は全体の58.8%と前回調査とほぼ同じである。京都の大学でこの傾向は高く、大阪の大学ではこのような考えは40%程度にすぎない。また、竹に縁が深いと考える具体的な地名をあげさせるフリーアンサーでは、今までの調査と同様、西京区から長岡京市にかけての西山地域と嵯峨野地域をあげる者が多いが、特に嵯峨野地区をあげた回答が顕著に多かった。また、地名ではないが、寺院や京料理の器をあげたものも多かった(表9)。

g) 竹類を竹と笹にわけた場合、全般に竹に対する評価の方が高いが、ほぼ同等の回答者が両方を評価している。また、薫英短大では笹に対する評価が最も高くなっており、興味深い(表5)。

h) 自分の庭における竹類の植栽は、21.8%の回答者の家庭で認められる。全般に府短大でその比率が高

表9. 京都で竹に縁が深い土地に関するフリーアンサー

|  |
|--|
| ・左京区……大原(三千院)(10人)、鞍馬(2人)、洛北、八瀬、銀閣寺の庭園   |
| ・北区……大徳寺、北山、上賀茂  |
| ・右京区……嵯峨野(嵯峨)(40人)、嵯峨野々宮(2人)、嵐山(12人)、苔寺、かぐや姫御殿   |
| ・西京区……洛西(8人)、大枝(3人)、大原野(3人)、竹林公園(3人)、西京区(2人)、洛西東竹の里、                                   |
| ・山科区……山科   |
| ・東山区……祇園、東山  |
| ・伏見区……醍醐   |
| ・京都市外……向日市(3人)、長岡京市(5人)、乙訓(3人)、丹波(2人)、八幡、田辺、稲山、南の方                                     |
| ・地名でないもの……寺院(3人)、お寺のまわり、お寺の近く、古寺、古い街並み、庭園、昔ながらの旅館、古いところ、景観、筍の味覚、京料理(器)(3人)、料亭とか、竹細工、茶道 |

い(表10)。

竹類の植栽がある場合、「好きである」という積極的な理由を挙げるものは10.8%にすぎず、「もともとあった」(63.1%)あるいは「何となく」(10.8%)という消極的な回答をするものが顕著に多い。「好きである」という回答者の割合は、特に府短大以外の2校で少なくなっている。竹類の多くは庭に植栽されており、植栽していると答えた回答者の80.0%が庭における植栽となっている。なお、実際に利用している竹の種類に関するフリーアンサーに対して、回答したものは極めて少なくわずかに7人であった。その内容はモウソウチク、クロチク、クマザサの3種に過ぎず、庭に植栽がある回答者においてもその種類の把握を明確に行い得ているものは非常に少ないことが推定される(表11)。

竹類を植栽しない理由の69.8%は「場所がない」ということであるが、「その他」という理由をあげたものがこれに次いで多く、その内容は植栽の有無に関しても意識していないという無関心さが介在することが考えられる。また、「興味がない」という回答者も多かった。庭への竹類の植栽についての関心の薄いことは、今後の植える意志をたずねた結果に関しても如実に現れている。すなわち、その理由として、肯定的な回答を示したものはわずかに5.2%に過ぎない。

i) 竹林に関するイメージ評価は、SD法(Semantic

表10. 庭の竹に関する回答 (%)

●庭に竹があるか

|   | 府大国語 | 府大生文 | 府大被服 |
|---|------|------|------|
| 有 | 31.8 | 20.9 | 30.3 |
| 無 | 68.2 | 79.1 | 69.7 |

|   | 光華食物 | 薫英   | 全体   |
|---|------|------|------|
| 有 | 15.5 | 24.5 | 21.8 |
| 無 | 84.5 | 75.5 | 78.2 |

→ 植えた理由

|      | 好き   | 何となく | 手間要らず | もともとあった | その他  | その他の自由回答 |
|------|------|------|-------|---------|------|----------|
| 府大国語 | 14.3 | 0.0  | 0.0   | 71.4    | 14.3 | 売る       |
| 府大生文 | 16.7 | 22.2 | 0.0   | 61.1    | 0.0  |          |
| 府大被服 | 20.0 | 30.0 | 0.0   | 40.0    | 10.0 | 和風の庭だから  |
| 光華食物 | 7.5  | 10.0 | 5.0   | 67.5    | 10.0 |          |
| 薫英   | 0.0  | 0.0  | 0.0   | 66.7    | 33.3 |          |
| 全体   | 10.8 | 10.8 | 1.5   | 63.1    | 13.9 |          |

・楽しみ方

|      | 庭    | 鉢植(屋外) | 両方  | その他  | その他の自由回答 |
|------|------|--------|-----|------|----------|
| 府大国語 | 71.4 | 7.1    | 0.0 | 21.4 |          |
| 府大生文 | 88.9 | 0.0    | 0.0 | 11.1 |          |
| 府大被服 | 70.0 | 20.0   | 0.0 | 10.0 |          |
| 光華食物 | 80.0 | 10.0   | 0.0 | 10.0 |          |
| 薫英   | 91.7 | 0.0    | 0.0 | 8.3  |          |
| 全体   | 80.0 | 7.7    | 0.0 | 12.3 |          |

→ 植えない理由

|      | 興味なし | 世話が大変 | 場所がない | その他  | その他の自由回答      |
|------|------|-------|-------|------|---------------|
| 府大国語 | 16.7 | 0.0   | 70.0  | 13.3 | 植えているかどうか知らない |
| 府大生文 | 0.0  | 2.9   | 67.7  | 29.4 |               |
| 府大被服 | 9.1  | 0.0   | 81.8  | 9.1  |               |
| 光華食物 | 14.7 | 1.8   | 67.9  | 15.6 |               |
| 薫英   | 8.1  | 5.4   | 70.3  | 16.2 |               |
| 全体   | 11.2 | 2.2   | 69.8  | 16.8 |               |

・今後、植えたいか

|      | はい  | いいえ  | どちらでもない |
|------|-----|------|---------|
| 府大国語 | 6.9 | 41.4 | 51.7    |
| 府大生文 | 3.0 | 33.3 | 63.6    |
| 府大被服 | 4.6 | 31.8 | 63.6    |
| 光華食物 | 6.4 | 51.4 | 42.2    |
| 薫英   | 2.7 | 35.1 | 62.2    |
| 全体   | 5.2 | 43.0 | 51.7    |

Differential Method)を用い、12のイメージ次元を5段階の尺度で評価させて行った(表12~20)。

各イメージ次元と比較的高い相関を示している属性に明らかなものはないが、一部のイメージ次元において、所属による差が認められる。各イメージの平均得点を見ると、「あたたかい」というイメージで、明らかな負の評価が与えられている。これ以外のイメージに関しては各イメージ次元ともに正の評価を与えている。しかし、「単純だ」、「やさしい」、「なつ

かしい」といったイメージに関してはほとんど中庸に近い評価になっており、具体的なイメージが比較的希薄な傾向が認められる。所属別にみると、全体に府短大の学生においてより積極的な評価を下している傾向が推定される。全イメージ次元に対する評価結果をもとに因子分析を行うと、ほぼ3つのイメージ次元群が抽出される。全体では、第I因子は「さわやかだ」、「美しい」等で代表される「爽快感」として、第II因子は「深い」、「強い」等で代表される

表11. 自宅に植えている竹や笹の種類に関するフリーアンサー

- ・モウソウ竹 (2人)
- ・黒竹 (2人)、細くて黒い竹 (2人)
- ・熊笹

表12. 竹林に関する各イメージ次元の評価スコアと被験者属性との相関関係

|       | 所 属     | 年 齢    | 居 住 歴  | 出 身 地  | 家 族 人 数 |
|-------|---------|--------|--------|--------|---------|
| 涼 しい  | .139*   | -.108  | -.091  | -.131* | .012    |
| なつかしい | .097    | .025   | .181** | -.044  | -.158** |
| さわやかだ | .204*** | .069   | .053   | -.027  | -.084   |
| 美 しい  | .234*** | .051   | .027   | -.028  | -.057   |
| あたたかい | -.068   | .071   | -.026  | .012   | .018    |
| 緑 色 だ | .067    | .011   | .010   | -.005  | -.030   |
| すばらしい | .160**  | -.154* | .001   | -.010  | -.022   |
| 単 純 だ | .085    | -.082  | .091   | .026   | -.002   |
| 良 しい  | .081    | -.092  | -.040  | .016   | -.053   |
| 強 しい  | .175**  | .016   | .107   | .088   | -.032   |
| 優 しい  | .113    | -.063  | -.000  | .036   | -.021   |
| 深 しい  | .065    | -.037  | -.087  | -.126* | -.166** |

\*:有意水準5%未満 \*\* :有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

表13. 竹林に関する各イメージ次元間における評価スコアの相関関係

|          | (1)     | (2)     | (3)     | (4)     | (5)     | (6)    | (7)     | (8)   | (9)     | (10)  | (11) | (12) |
|----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|-------|---------|-------|------|------|
| 涼 しい(1)  | —       |         |         |         |         |        |         |       |         |       |      |      |
| なつかしい(2) | .219**  | —       |         |         |         |        |         |       |         |       |      |      |
| さわやかだ(3) | .384*** | .261*** | —       |         |         |        |         |       |         |       |      |      |
| 美 しい(4)  | .361*** | .212*** | .545*** | —       |         |        |         |       |         |       |      |      |
| あたたかい(5) | -.150*  | .057    | .061    | .006    | —       |        |         |       |         |       |      |      |
| 緑 色 だ(6) | .159**  | .015    | .094    | .145*   | -.048   | —      |         |       |         |       |      |      |
| すばらしい(7) | .249*** | .275*** | .318*** | .521*** | .132*   | .171** | —       |       |         |       |      |      |
| 単 純 だ(8) | .068    | .045    | .131*   | .016    | -.124*  | -.012  | -.011   | —     |         |       |      |      |
| 良 しい(9)  | .344*** | .245*** | .393*** | .520*** | .037    | .171** | .633*** | .064  | —       |       |      |      |
| 強 しい(10) | .067    | .046    | .030    | .158**  | .065    | .119*  | .238*** | .004  | .213*** | —     |      |      |
| 優 しい(11) | .136*   | .111    | .332*** | .292*** | .237*** | .079   | .256*** | .058  | .273*** | .098  | —    |      |
| 深 しい(12) | .170**  | .181**  | .158**  | .239*** | -.125*  | .184** | .274*** | -.078 | .291*** | .141* | .062 | —    |

\*:有意水準5%未満 \*\* :有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

「力強さ」として、第III因子は「あたたかい」等で代表される「温り」としてそれぞれ捉えられる。所属別にみると、グループわけの内容は少し異なってくる。府短大国語科では第I因子が「爽快感」と「深遠さ」の評価の結合した「総合的な質的評価」として推定され、その説明率が顕著に高くなっている。第II因子としては「単純性」が、第III因子としては

「感覚的評価」が因子として推定された。同生活文化科でも、第I因子に関しては国語科と同様であるが、第II因子は「力強さ」の評価、第III因子は「単純性」の評価となっている。しかし、この「単純性」の因子の中には「やさしい」のイメージ次元が負の因子として存在しており、「単純性」に畏怖感が含まれていることがわかる。同被服科では、「感覚的評価」

表14. 所属別の竹林に関するイメージ評価の差

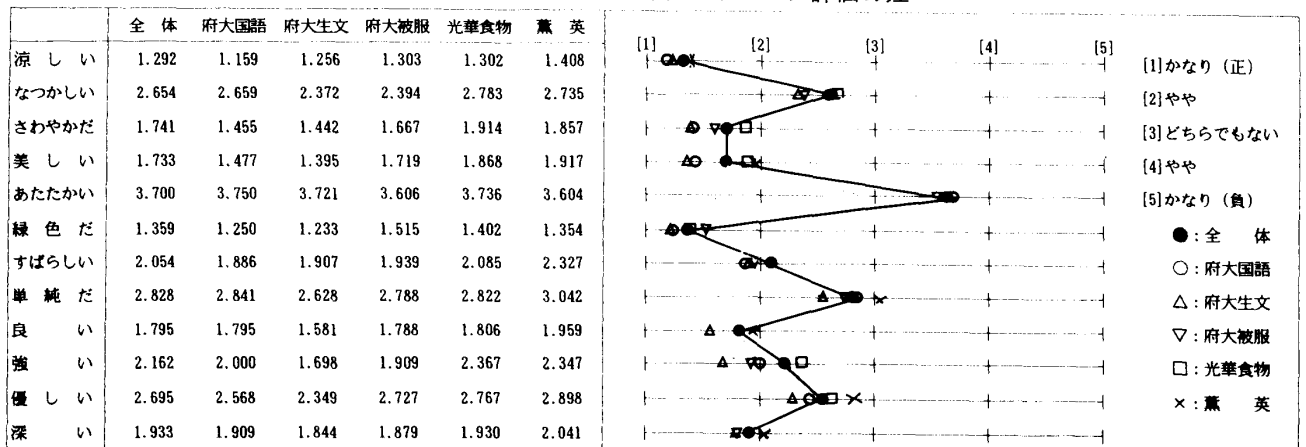


表15. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (全体)

|        | 第I因子         | 第II因子         | 第III因子       |
|--------|--------------|---------------|--------------|
| さわやかだ  | <b>0.796</b> | -0.045        | -0.055       |
| 美しい    | <b>0.727</b> | 0.266         | -0.046       |
| 良い     | <b>0.652</b> | 0.431         | -0.036       |
| 優しい    | <b>0.598</b> | -0.105        | 0.339        |
| すばらしい  | <b>0.594</b> | 0.512         | 0.142        |
| 涼しい    | <b>0.548</b> | 0.053         | -0.489       |
| なつかしい  | <b>0.465</b> | 0.050         | 0.041        |
| 深強い    | 0.119        | <b>0.666</b>  | -0.222       |
| 強い     | 0.077        | <b>0.513</b>  | 0.268        |
| 緑色だ    | 0.086        | <b>0.443</b>  | -0.152       |
| 単純だ    | 0.279        | <b>-0.413</b> | -0.327       |
| あたたかい  | 0.202        | -0.091        | <b>0.822</b> |
| 固有値    | 2.961        | 1.620         | 1.309        |
| 説明率(%) | 50.3         | 27.5          | 22.2         |
| 推定因子名  | 爽快感          | 力強さ           | 温り           |

表16. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大国語)

|        | 第I因子         | 第II因子         | 第III因子        |
|--------|--------------|---------------|---------------|
| 良い     | <b>0.804</b> | 0.044         | 0.071         |
| 深い     | <b>0.756</b> | -0.115        | -0.392        |
| すばらしい  | <b>0.725</b> | -0.224        | 0.161         |
| さわやかだ  | <b>0.720</b> | 0.166         | 0.135         |
| 美しい    | <b>0.719</b> | -0.363        | 0.219         |
| なつかしい  | <b>0.458</b> | 0.446         | 0.255         |
| 涼しい    | <b>0.396</b> | 0.016         | -0.018        |
| 単純だ    | 0.004        | <b>0.832</b>  | 0.179         |
| あたたかい  | 0.292        | <b>-0.662</b> | 0.453         |
| 優しい    | 0.187        | -0.191        | <b>0.729</b>  |
| 緑色だ    | -0.110       | -0.103        | <b>-0.388</b> |
| 強い     | 0.170        | -0.068        | <b>-0.466</b> |
| 固有値    | 3.306        | 1.606         | 1.454         |
| 説明率(%) | 51.9         | 25.2          | 22.8          |
| 推定因子名  | 質的総合評価       | 単純性           | 感覚的評価         |

表17. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大生文)

|        | 第I因子         | 第II因子         | 第III因子        |
|--------|--------------|---------------|---------------|
| 良い     | <b>0.798</b> | 0.063         | -0.189        |
| すばらしい  | <b>0.788</b> | 0.373         | -0.094        |
| 美しい    | <b>0.786</b> | 0.033         | 0.033         |
| 涼しい    | <b>0.701</b> | -0.158        | -0.096        |
| さわやかだ  | <b>0.676</b> | -0.230        | -0.147        |
| なつかしい  | <b>0.385</b> | -0.102        | 0.075         |
| 強い     | 0.340        | <b>0.660</b>  | 0.224         |
| あたたかい  | 0.029        | <b>0.474</b>  | -0.233        |
| 深強い    | 0.125        | <b>-0.488</b> | 0.026         |
| 緑色だ    | 0.375        | <b>-0.561</b> | 0.094         |
| 単純だ    | 0.084        | -0.271        | <b>0.811</b>  |
| 優しい    | 0.292        | -0.096        | <b>-0.776</b> |
| 固有値    | 3.337        | 1.528         | 1.454         |
| 説明率(%) | 52.8         | 24.2          | 23.0          |
| 推定因子名  | 質的総合評価       | 力強さ           | 単純性           |

表18. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大被服)

|        | 第I因子         | 第II因子        | 第III因子       |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 優しい    | <b>0.816</b> | 0.225        | 0.177        |
| 強い     | <b>0.748</b> | 0.150        | -0.100       |
| あたたかい  | <b>0.743</b> | -0.014       | 0.111        |
| なつかしい  | <b>0.627</b> | 0.071        | 0.098        |
| すばらしい  | 0.238        | <b>0.822</b> | 0.112        |
| 良い     | 0.158        | <b>0.752</b> | 0.068        |
| 美しい    | 0.243        | <b>0.712</b> | 0.325        |
| 緑色だ    | -0.080       | <b>0.615</b> | -0.024       |
| さわやかだ  | 0.049        | 0.332        | <b>0.784</b> |
| 涼しい    | -0.124       | 0.161        | <b>0.776</b> |
| 単純だ    | 0.162        | -0.206       | <b>0.772</b> |
| なつかしい  | 0.326        | 0.124        | <b>0.555</b> |
| 固有値    | 2.469        | 2.398        | 2.306        |
| 説明率(%) | 34.4         | 33.4         | 32.2         |
| 推定因子名  | 感覚的評価        | 質的総合評価       | 爽快感・単純性      |

表19. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (光華食物)

|        | 第I因子         | 第II因子         | 第III因子        |
|--------|--------------|---------------|---------------|
| さわやかだ  | <b>0.783</b> | 0.036         | -0.169        |
| 美しい    | <b>0.755</b> | -0.224        | 0.221         |
| 良い     | <b>0.746</b> | -0.290        | 0.153         |
| すばらしい  | <b>0.678</b> | -0.141        | 0.406         |
| 優しい    | <b>0.647</b> | 0.223         | -0.113        |
| なつかしい  | <b>0.380</b> | 0.155         | 0.064         |
| あたたかい  | 0.284        | <b>0.790</b>  | 0.094         |
| 涼しい    | 0.418        | <b>-0.460</b> | -0.360        |
| 深強い    | 0.157        | <b>-0.650</b> | 0.366         |
| 強い     | 0.104        | -0.027        | <b>0.607</b>  |
| 緑色だ    | 0.164        | -0.139        | <b>0.358</b>  |
| 単純だ    | 0.159        | -0.112        | <b>-0.614</b> |
| 固有値    | 3.104        | 1.521         | 1.429         |
| 説明率(%) | 51.3         | 25.1          | 23.6          |
| 推定因子名  | 爽快感          | 温り            | 力強さ           |

表20. 竹林に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (薫英)

|        | 第I因子          | 第II因子        | 第III因子        |
|--------|---------------|--------------|---------------|
| 美しい    | <b>0.807</b>  | 0.070        | 0.090         |
| さわやかだ  | <b>0.799</b>  | 0.018        | 0.022         |
| 涼しい    | <b>0.714</b>  | 0.239        | 0.021         |
| なつかしい  | <b>0.511</b>  | 0.200        | -0.394        |
| あたたかい  | <b>-0.333</b> | 0.171        | -0.122        |
| 強い     | -0.290        | <b>0.742</b> | 0.255         |
| 良い     | 0.428         | <b>0.716</b> | 0.006         |
| すばらしい  | 0.350         | <b>0.705</b> | -0.072        |
| 緑色だ    | -0.036        | <b>0.486</b> | -0.062        |
| 単純だ    | 0.016         | 0.127        | <b>0.836</b>  |
| 優しい    | 0.301         | 0.043        | <b>0.657</b>  |
| 深い     | 0.125         | 0.510        | <b>-0.634</b> |
| 固有値    | 2.670         | 2.206        | 1.664         |
| 説明率(%) | 40.8          | 33.7         | 25.4          |
| 推定因子名  | 爽快感           | 質的総合評価       | 力強さ           |

が第Ⅰ因子に、「質的評価」が第Ⅱ因子に、「爽快感」と「単純性」が第Ⅲ因子にそれぞれ推定される。また、光華短大では第Ⅰ因子として「爽快感」が、第Ⅱ因子として「温り」が、第Ⅲ因子として「力強さ」が代表的な因子として推定されるが、第Ⅱ因子では「深い」に対するイメージが、第Ⅲ因子では「単純である」に対するイメージが負になっており、温りの評価に奥行きが浅いという評価が、また力強さの評価に複雑さが、それぞれ関与していることが推定される。薫英短大においては、第Ⅰ因子と第Ⅲ因子に関して、光華短大とほぼ同様の因子が推定される。しかし、第Ⅱ因子は「質的評価」が代表因子として考えられる。

j) 竹林に対しては、感覚的に肯定的な評価をするフ

リーアンサーが大半を占め、その評価の多くがイメージ評価で得られたような形容詞による表現となっている。次いで多い評価は歴史性の評価で、日本的、神秘的等の評価が中心となっている。また、稗の通直性、地震対策等の生態面の評価も多い。これに対して、社会人を対象にした結果と顕著に異なっている点が、景観面の評価が非常に少ない点である。一方、数は少ないが、竹林に対する恐怖感や落ち葉、藪蚊を理由とする否定的な評価も認められた(表21)。

## (2)竹製品および竹材に対する意識(表21~33)

竹製品あるいは竹材の利用等に関するいくつかの質問およびイメージ分析のための質問を行った。以下に各設問についてその回答内容をまとめる。

表21. イメージに関するフリーアンサー

|         |                               |     |
|---------|-------------------------------|-----|
| ○竹林     |                               |     |
| ・ 正の評価  | 感覚的評価(力強い、落ち着く、涼しそう、風情、美しい等)  | 49人 |
|         | 歴史性評価(日本的、神秘的、時間を感じる等)        | 13人 |
|         | 生態面評価(稗の通直性、地震対策等)            | 12人 |
|         | 保護の必要性                        | 6人  |
|         | 利用面評価(庭木、笹舟、獅子威し、七夕、植えたい等)    | 6人  |
|         | 景観面評価(緑、自然の良さ等)               | 4人  |
|         | その他の評価(思い出、時代劇等)              | 5人  |
| ・ 負の評価  | 感覚的評価(怖い、危ない)                 | 2人  |
|         | 生態面評価(落ち葉、藪蚊)                 | 2人  |
|         | 景観面評価                         | 1人  |
| ○竹製品    |                               |     |
| ・ 正の評価  | 感覚的評価(涼しげ、落ち着き、素朴、趣がある等)      | 15人 |
|         | 利用面評価(使いやすい、安い、もっと取り入れたい等)    | 10人 |
|         | 特性面評価(優れた技術、香り、かたい、丈夫)        | 4人  |
|         | 歴史性評価(伝統的、芸術等)                | 4人  |
|         | その他の評価(竹林の保存の必要性等)            | 5人  |
| ・ 負の評価  | 利用面評価(怪我をする、気軽に使いにくい、入手しにくい等) | 9人  |
|         | 特性面評価(吸湿性、割れやすい、におい)          | 3人  |
|         | 感覚的評価                         | 1人  |
| ○竹全般    |                               |     |
| ・ 肯定的評価 | 植物としての竹への評価                   | 7人  |
|         | 感覚的な評価                        | 6人  |
|         | 保護の必要性                        | 6人  |
|         | 食品としての評価                      | 5人  |
|         | 利用価値に対する評価                    | 4人  |
|         | 歴史性の評価                        | 4人  |
|         | その他の評価(昔話、竹取物語等)              | 5人  |
| ・ 否定的評価 | 生活に密着した日常品ではないこと等             | 5人  |

a) 竹製品については64.0%が「好き」と回答しており、前回の調査における一般大学生の結果よりも低い値になっている。所属別にみると、府短大を除く2校で、「好き」と答えた回答者が少ない傾向にある(表22)。

b) 実際の竹製品の使用の経験は全体の88.5%に達している。しかし、36.6%は過去の使用経験者で、現在使用しているものは51.9%に過ぎない。現在の使用に関しては所属による大きな差はないが、使用の経験がまったくないものが、光華短大と薫英短大で15%前後にも達しており、明らかな違いとなっている。

c) 以上のように88.5%の回答者が竹製品の使用経験を持っているが、実際に経験のある製品に関しては以下のようなことがいえる。社会人を対象とした調査では、「かご・ざる類」の使用経験者が92.7%とい

う高率を示したが、今回の調査では、「竹ぼうき」の使用経験者が最も多く(67.1%)、「かご・ざる類」は63.8%に過ぎなかった。しかも、これら2種類の製品以外には、使用経験者が50%を越える製品はなく、「箸を含めた食器類」(37.6%)、「茶道具」(27.2%)、「物干し竿」(24.8%)を除くと、20%にも満たない回答者しか使用経験がない。なお、所属による使用経験の違いはみとめられなかった。このように、現在の生活の中から、日用品としての竹製品が急激に消滅しつつあることが示唆される(表23)。

d) 製品以外の竹の利用経験に関しては、「七夕」のササとしての利用経験が顕著に高く、88.6%にのぼっている。この値は社会人の調査結果よりも高く、前回の一般学生の調査における女子学生の値とほぼ同等である。「七夕」のササとしての利用経験者の割合



表22. 所属別にみた竹細工に関する設問に対する回答の比率 (%)

|      | 竹細工は |     |       | 竹製品の使用は |         |          | 竹細工をしたことは |      |
|------|------|-----|-------|---------|---------|----------|-----------|------|
|      | 好き   | 嫌い  | どちらでも | 現在使っている | 過去使っていた | 使ったことはない | ある        | ない   |
| 府大國語 | 75.0 | 4.5 | 20.5  | 56.8    | 34.1    | 9.1      | 27.3      | 72.7 |
| 府大生文 | 62.8 | 2.3 | 34.9  | 45.2    | 50.0    | 4.8      | 46.5      | 53.5 |
| 府大被服 | 66.7 | 3.0 | 30.3  | 54.5    | 39.4    | 6.1      | 51.5      | 48.5 |
| 光華食物 | 61.7 | 0.0 | 38.3  | 54.3    | 31.5    | 14.2     | 45.7      | 54.3 |
| 薫英   | 59.2 | 4.1 | 36.7  | 44.9    | 38.8    | 16.3     | 50.0      | 50.0 |
| 全 体  | 64.0 | 2.0 | 34.0  | 51.9    | 36.6    | 11.5     | 44.4      | 55.6 |

表23. 竹材の利用に関する設問(複数選択)に対する回答の内容 (%)

|             |        | 全体   | 府大國語 | 府大生文 | 府大被服 | 光華食物 | 薫英   | その他の自由回答  |
|-------------|--------|------|------|------|------|------|------|-----------|
| 使ったことのある竹製品 | 籠、ザル類  | 63.8 | 54.6 | 72.1 | 66.7 | 61.2 | 69.4 | 耳かき、健康竹踏み |
|             | 竹ぼうき類  | 67.1 | 77.3 | 79.1 | 69.7 | 62.8 | 57.1 |           |
|             | 物干し竿   | 24.8 | 25.0 | 25.6 | 24.2 | 21.7 | 32.7 |           |
|             | 食器(含箸) | 37.6 | 43.2 | 51.2 | 33.3 | 34.1 | 32.7 |           |
|             | 家具     | 7.4  | 13.6 | 4.7  | 3.0  | 6.2  | 10.2 |           |
|             | 装身具    | 4.0  | 4.6  | 4.7  | 6.1  | 4.7  | 0.0  |           |
|             | 茶道具    | 27.2 | 27.3 | 34.9 | 27.3 | 27.9 | 18.4 |           |
|             | 華道具    | 7.7  | 4.6  | 7.0  | 6.1  | 10.1 | 6.1  |           |
|             | 文房具    | 10.1 | 9.1  | 9.3  | 21.2 | 9.3  | 6.1  |           |
|             | ほか用品   | 7.4  | 6.8  | 7.0  | 18.2 | 5.4  | 6.1  |           |
| その他         | 11.4   | 9.1  | 7.0  | 9.1  | 12.4 | 16.3 |      |           |
| 製品以外の竹の利用   | 畑等の支柱  | 12.1 | 15.9 | 16.3 | 18.2 | 8.5  | 10.2 | 水鉄砲       |
|             | 釣竿     | 10.4 | 9.1  | 20.9 | 0.0  | 8.5  | 14.3 |           |
|             | 竹垣     | 10.1 | 13.6 | 14.0 | 9.1  | 9.3  | 6.1  |           |
|             | 七夕     | 88.6 | 86.4 | 93.0 | 87.9 | 90.7 | 81.6 |           |
|             | その他    | 7.1  | 9.1  | 7.0  | 0.0  | 5.4  | 14.3 |           |
| 遊びとしての竹の利用  | 竹とんぼ   | 69.8 | 68.2 | 81.4 | 72.7 | 70.5 | 57.1 | けん玉みたいなもの |
|             | 竹馬     | 63.1 | 70.5 | 74.4 | 54.6 | 56.7 | 61.2 |           |
|             | 笹舟     | 54.7 | 54.6 | 58.1 | 54.6 | 54.3 | 53.1 |           |
|             | 竹返し    | 1.3  | 2.3  | 2.3  | 0.0  | 0.8  | 2.0  |           |
|             | 籠作り    | 7.7  | 4.6  | 4.7  | 9.1  | 7.0  | 14.3 |           |
|             | 水紙鉄砲   | 24.2 | 20.5 | 34.9 | 24.2 | 23.3 | 20.4 |           |
|             | その他    | 3.0  | 2.3  | 2.3  | 0.0  | 3.1  | 6.1  |           |
|             | 経験なし   | 5.0  | 6.8  | 0.0  | 6.1  | 5.4  | 6.1  |           |

表24. 竹を使った遊びを教えた人と材料の入手方法についての回答(複数選択)の内容(%)

|      | 遊びを教えた人 |      |          |      |           |      | 材料の入手方法 |            |           | その他** |
|------|---------|------|----------|------|-----------|------|---------|------------|-----------|-------|
|      | 祖父<br>母 | 両親   | 兄弟<br>姉妹 | 友達   | 学校の<br>先生 | その他* | 買った     | 竹林で<br>取った | 家に<br>あった |       |
| 府大國語 | 13.6    | 52.3 | 2.3      | 27.3 | 40.9      | 6.8  | 36.4    | 47.7       | 15.9      | 6.8   |
| 府大生文 | 25.6    | 48.8 | 14.0     | 20.9 | 51.2      | 7.0  | 46.5    | 37.2       | 11.6      | 11.6  |
| 府大被服 | 9.1     | 42.4 | 0.0      | 24.2 | 42.4      | 6.1  | 51.5    | 24.2       | 12.1      | 21.2  |
| 光華食物 | 17.1    | 50.4 | 4.7      | 15.5 | 41.9      | 1.6  | 45.7    | 33.3       | 11.6      | 10.1  |
| 薫英   | 10.2    | 40.8 | 2.0      | 16.3 | 51.0      | 6.1  | 40.8    | 30.6       | 12.2      | 10.2  |
| 全 体  | 15.8    | 48.0 | 4.7      | 19.1 | 44.6      | 4.4  | 44.3    | 34.6       | 12.4      | 11.1  |

\*自由回答

・府大國語：近所の人、学校の全校活動で上級生に、叔父、叔母

・府大生文：よそのおじいさんやおばあさん(何かの催しで)

・府大被服：科学センター、叔母

・光華食物：親戚

・薫英：自治会の人、叔父

\*\*自由回答

・府大國語：借りた、友達の家にあった、学校にあった

・府大生文：用意してあった、友達に取ってきてもらった

・府大被服：学校での共同購入、川べりにあった、川のそばに茂っていた、友達が持っていた

先生が用意した、忘れた、不明

・光華食物：学校で用意された、学校にあった、すでに竹とんぼとして家にあった、

七夕の時の残り、田舎にあった、忘れた

・薫英：学校にあった、キャンプ地に行った

はこのように高率ではあるが、これ以外の利用経験は非常に少なく、すべて10%前後かそれ以下である。

この傾向は光華短大で特に顕著である。

e) 竹細工の経験者は、全体の44.4%を占め、社会人の女性に対する調査結果よりも高いが、一般学生の

調査結果よりは低い比率になっている。

f) 竹は本来、遊びの道具としても利用価値の高いものである。竹を使った遊びの経験については、未経験者が全体の5.0%存在する。しかし、全体に竹離れが顕著な流れから見て、この数字は小さい値と考

えられる。最も経験者が多い遊びは、「竹とんぼ」で全体の69.8%が経験している。特に府短大生活文化科でその割合が高い。その他、「竹馬」に関して63.1%、「笹舟」に関して54.7%とこの2つについても比較的多くの経験者がいる。以上の他には「水または紙鉄砲」の経験者が24.2%あるのみで、その他の遊びの経験者は非常に少ない。しかし、遊びの分野では、他の分野と比較した場合、まだ多種類の利用の経験者が多いと考えられる(表23)。

g) 竹を使った遊びの伝達者としては、「肉親」が63.8%と高く、そのうち48.0%が「両親」となっている。

「両親」の比率が比較的高い。また、第3者としては「学校の先生」が44.6%と高く、前回の一般大学生を対象とした調査結果とほぼ同様の結果となっている。また、一般大学生の結果と比べると、「友達」の占める割合は低くなっているが、これは女性ということが起因していると思われる(表24)。

h) 竹の利用に際して材料の入手を如何にしたかに関しては、全体の44.3%が「購入した」と答えている。次いで、「竹林へ直接採りにいった」経験者が34.6%存在する。しかしこの順位は、府短大國語科では逆転している。また、「その他」の回答者が比較的多く、

表25. 竹製品に関する各イメージ次元の評価スコアと被験者属性との相関関係

|       | 所属    | 年齢     | 居住歴   | 出身地   | 家族人数  |
|-------|-------|--------|-------|-------|-------|
| 綺麗だ   | .090  | -.026  | -.024 | .019  | -.040 |
| なつかしい | .034  | -.107  | .027  | .010  | -.009 |
| さわやかだ | .128* | -.084  | .011  | -.055 | -.009 |
| あたたかい | -.015 | -.018  | -.020 | -.016 | -.031 |
| 安い    | -.035 | -.083  | -.012 | .005  | .027  |
| すばらしい | .076  | -.133* | -.083 | -.000 | -.077 |
| 精巧だ   | .125* | -.017  | -.042 | .041  | -.020 |
| 便利だ   | .050  | .015   | .022  | .004  | -.054 |
| 強い    | .104  | .050   | .125* | .011  | .011  |
| 優しい   | .005  | -.097  | -.005 | -.067 | .038  |
| 使いやすい | .114  | -.060  | .099  | -.042 | .033  |
| 入手が容易 | -.070 | -.124* | .021  | -.004 | -.044 |
| 軽い    | .062  | .007   | -.030 | .037  | .013  |

\*:有意水準5%未満 \*\*:有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

表26. 竹製品に関する各イメージ次元間における評価スコアの相関関係

|           | (1)     | (2)     | (3)     | (4)     | (5)     | (6)     | (7)     | (8)     | (9)     | (10)    | (11)    | (12)  | (13) |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|------|
| 綺麗だ(1)    | —       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |         |       |      |
| なつかしい(2)  | .249*** | —       |         |         |         |         |         |         |         |         |         |       |      |
| さわやかだ(3)  | .502*** | .281*** | —       |         |         |         |         |         |         |         |         |       |      |
| あたたかい(4)  | .157**  | .315*** | .043    | —       |         |         |         |         |         |         |         |       |      |
| 安い(5)     | -.121*  | .102    | -.091   | .168**  | —       |         |         |         |         |         |         |       |      |
| すばらしい(6)  | .474*** | .244*** | .364*** | .281*** | -.117   | —       |         |         |         |         |         |       |      |
| 精巧だ(7)    | .446*** | .080    | .278*** | .129*   | -.132*  | .529*** | —       |         |         |         |         |       |      |
| 便利だ(8)    | .153*   | .131*   | .235*** | .144*   | -.012   | .313*** | .369*** | —       |         |         |         |       |      |
| 強い(9)     | .060    | .137*   | .222*** | .052    | -.084   | .208*** | .142*   | .364*** | —       |         |         |       |      |
| 優しい(10)   | .284*** | .305*** | .341*** | .430*** | .029    | .404*** | .283*** | .302*** | .192**  | —       |         |       |      |
| 使いやすい(11) | .120*   | .147*   | .202*** | .157**  | -.019   | .279*** | .196**  | .482*** | .249*** | .336*** | —       |       |      |
| 入手が容易(12) | .077    | .026    | .081    | .040    | .334*** | .067    | .060    | .223*** | .031    | .101    | .195**  | —     |      |
| 軽い(13)    | .134*   | .041    | .150*   | .020    | .067    | .200*** | .234*** | .179**  | .048    | .100    | .206*** | .123* | —    |

\*:有意水準5%未満 \*\*:有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

表27. 所属別の竹製品に関するイメージ評価の差

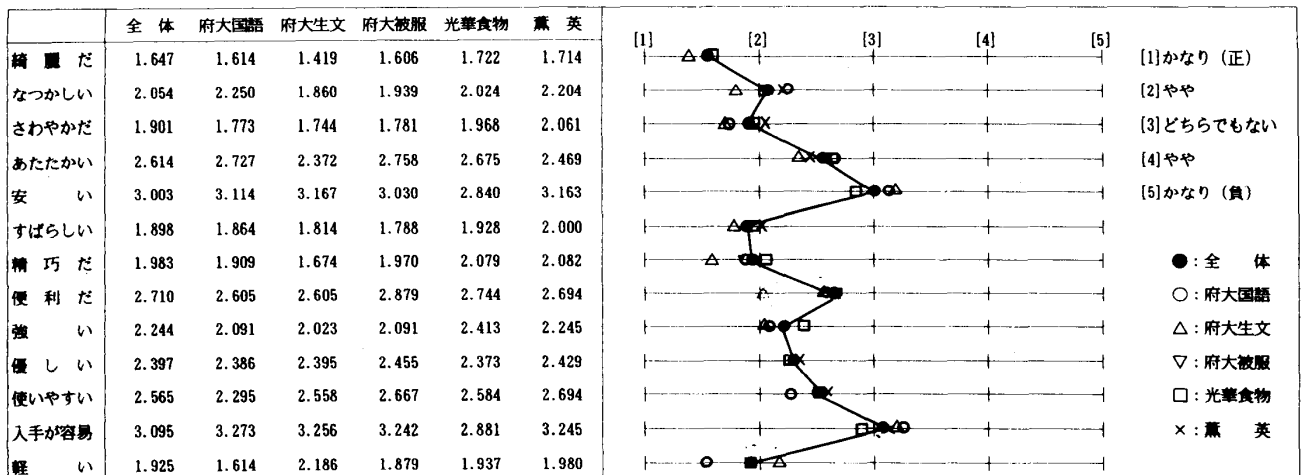


表28. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（全体）

|        | 第Ⅰ因子   | 第Ⅱ因子   | 第Ⅲ因子   |
|--------|--------|--------|--------|
| 綺麗だ    | 0.776  | -0.010 | 0.031  |
| すばらしい  | 0.713  | 0.256  | 0.071  |
| さわやかだ  | 0.645  | 0.188  | -0.012 |
| 精巧だ    | 0.615  | 0.278  | -0.106 |
| 優しい    | 0.533  | 0.297  | 0.379  |
| 便利だ    | 0.235  | 0.791  | 0.008  |
| 使いやすい  | 0.171  | 0.722  | 0.165  |
| 強い     | 0.129  | 0.580  | -0.151 |
| 軽い     | 0.073  | 0.350  | 0.114  |
| 安い     | -0.359 | 0.050  | 0.718  |
| あたたかい  | 0.293  | 0.009  | 0.662  |
| なつかしい  | 0.426  | -0.048 | 0.486  |
| 入手が容易  | -0.156 | 0.415  | 0.483  |
| 固有値    | 2.715  | 2.049  | 1.647  |
| 説明率(%) | 42.4   | 32.0   | 25.7   |
| 推定因子名  | 技術面評価  | 至便性    | 感覚的評価  |

表30. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（府大生文）

|        | 第Ⅰ因子   | 第Ⅱ因子   | 第Ⅲ因子   |
|--------|--------|--------|--------|
| 綺麗だ    | 0.814  | -0.024 | 0.210  |
| すばらしい  | 0.762  | 0.247  | 0.171  |
| 精巧だ    | 0.744  | 0.210  | 0.017  |
| 安い     | -0.601 | -0.040 | 0.508  |
| 強い     | -0.034 | 0.811  | -0.151 |
| 便利だ    | 0.214  | 0.763  | -0.006 |
| 優しい    | 0.227  | 0.672  | 0.058  |
| さわやかだ  | 0.448  | 0.599  | 0.229  |
| 使いやすい  | 0.340  | 0.486  | -0.093 |
| 入手が容易  | -0.178 | 0.309  | 0.122  |
| 軽い     | 0.109  | -0.263 | 0.739  |
| なつかしい  | 0.111  | 0.139  | 0.666  |
| あたたかい  | 0.026  | 0.077  | 0.606  |
| 固有値    | 2.629  | 2.584  | 1.779  |
| 説明率(%) | 37.6   | 37.0   | 25.4   |
| 推定因子名  | 技術面評価  | 至便性    | 感覚的評価  |

表32. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（光華食物）

|        | 第Ⅰ因子    | 第Ⅱ因子   | 第Ⅲ因子    |
|--------|---------|--------|---------|
| 綺麗だ    | 0.819   | 0.034  | 0.054   |
| さわやかだ  | 0.712   | 0.171  | -0.166  |
| 優しい    | 0.637   | 0.224  | 0.314   |
| すばらしい  | 0.613   | 0.435  | 0.184   |
| 精巧だ    | 0.528   | 0.427  | -0.029  |
| 便利だ    | 0.226   | 0.754  | 0.012   |
| 使いやすい  | 0.138   | 0.681  | 0.199   |
| 入手が容易  | 0.027   | 0.601  | 0.272   |
| 強い     | 0.096   | 0.553  | -0.164  |
| 軽い     | 0.120   | 0.471  | -0.095  |
| あたたかい  | 0.124   | 0.012  | 0.750   |
| 安い     | -0.338  | 0.057  | 0.673   |
| なつかしい  | 0.360   | -0.034 | 0.570   |
| 固有値    | 2.591   | 2.378  | 1.654   |
| 説明率(%) | 39.1    | 35.9   | 25.0    |
| 推定因子名  | 感覚的技術評価 | 至便性    | (感覚的評価) |

表29. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（府大国語）

|        | 第Ⅰ因子   | 第Ⅱ因子    | 第Ⅲ因子   |
|--------|--------|---------|--------|
| あたたかい  | 0.740  | 0.140   | 0.039  |
| 使いやすい  | 0.656  | 0.136   | 0.289  |
| 優しい    | 0.645  | 0.442   | 0.237  |
| 強い     | 0.606  | -0.305  | 0.180  |
| 便利だ    | 0.602  | 0.011   | 0.445  |
| 入手が容易  | 0.567  | 0.012   | -0.136 |
| 安い     | 0.508  | -0.034  | -0.355 |
| さわやかだ  | 0.030  | 0.730   | 0.158  |
| 綺麗だ    | -0.177 | 0.716   | 0.318  |
| なつかしい  | 0.407  | 0.651   | -0.213 |
| 精巧だ    | -0.056 | 0.146   | 0.749  |
| 軽い     | 0.137  | 0.008   | 0.599  |
| すばらしい  | 0.125  | 0.429   | 0.597  |
| 固有値    | 2.939  | 2.005   | 1.964  |
| 説明率(%) | 42.5   | 29.0    | 28.4   |
| 推定因子名  | 感覚的評価  | 感覚的技術評価 | 質的技術評価 |

表31. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（府大被服）

|        | 第Ⅰ因子   | 第Ⅱ因子   | 第Ⅲ因子   |
|--------|--------|--------|--------|
| 優しい    | 0.749  | -0.038 | 0.319  |
| あたたかい  | 0.738  | -0.051 | 0.015  |
| なつかしい  | 0.645  | -0.116 | -0.310 |
| 綺麗だ    | 0.628  | 0.189  | 0.473  |
| すばらしい  | 0.613  | -0.472 | 0.354  |
| さわやかだ  | 0.521  | 0.165  | 0.132  |
| 使いやすい  | 0.458  | 0.039  | 0.326  |
| 安い     | 0.231  | 0.822  | -0.025 |
| 入手が容易  | 0.083  | 0.777  | 0.233  |
| 強い     | 0.268  | -0.690 | -0.080 |
| 便利だ    | 0.140  | -0.028 | 0.863  |
| 精巧だ    | 0.174  | 0.124  | 0.713  |
| 軽い     | -0.003 | 0.374  | 0.462  |
| 固有値    | 2.955  | 2.216  | 2.199  |
| 説明率(%) | 40.1   | 30.1   | 29.8   |
| 推定因子名  | 技術面評価  | 経済性    | 利用性    |

表23. 竹製品に関する各イメージ次元における因子分析の結果（薫英）

|        | 第Ⅰ因子   | 第Ⅱ因子   | 第Ⅲ因子   |
|--------|--------|--------|--------|
| 使いやすい  | 0.860  | 0.004  | 0.151  |
| 便利だ    | 0.788  | 0.089  | -0.069 |
| 優しい    | 0.606  | 0.300  | -0.090 |
| 強い     | 0.603  | 0.058  | -0.112 |
| 軽い     | 0.445  | -0.013 | 0.219  |
| 綺麗だ    | -0.058 | 0.786  | -0.106 |
| すばらしい  | 0.076  | 0.762  | -0.112 |
| さわやかだ  | 0.046  | 0.755  | 0.041  |
| 精巧だ    | 0.273  | 0.541  | -0.464 |
| あたたかい  | 0.280  | 0.489  | 0.231  |
| なつかしい  | 0.457  | 0.459  | 0.043  |
| 安い     | 0.041  | -0.088 | 0.882  |
| 入手が容易  | 0.043  | 0.057  | 0.878  |
| 固有値    | 2.667  | 2.624  | 1.940  |
| 説明率(%) | 36.9   | 36.3   | 26.8   |
| 推定因子名  | 利用性    | 技術面評価  | 経済性    |

学校等で用意されたものを受身的に使っている傾向が示唆された。

i) 竹製品に関しても竹林と同様のイメージ評価を行った(表25~33)。

竹製品に関しては、各イメージ次元と相関関係が高い属性は認められなかった。各イメージ次元の平均得点を見ると大半は正の評価となっているが、「安い」および「入手が容易」の2イメージ次元に関しては中庸あるいは負の傾向の平均得点となっている。しかし、光華短大では、すべてのイメージ次元が正の評価となっており、至便性に関するイメージにおいて積極的な評価が認められる。また、府短大言語科では具体的なイメージ群に対して、同生活文化科では全般的に積極的な評価がなされている。他の2グループの評価は全般に中庸である。これらの評価結果を因子分析にかけるとほぼ3つの因子に分けられ、以下のようなことがいえる。全体をみると、第I因子として「きれいだ」、「すばらしい」等で代表される「技術面の評価」が、第II因子として「便利だ」、「使いやすい」等で代表される「至便性」が、第III因子として「安い」、「あたたかい」等で代表される「感覚的評価」がそれぞれ推定因子名としてあげられる。次に所属別に同様のグループ分けをすると、府短大言語科では第I因子として「感覚的評価」、第II因子として「感覚的な技術評価」、第III因子として「質的な技術評価」が推定され、「至便性」の評価が表に出ない。同生活文化科では、全体と同様の結果が得られるものの、第I因子の「技術面の評価」の中に「安い」のイメージ次元が負の要素として含ま

れるのが目につく。さらに同被服科では、第I因子に「感覚的評価」がくるものの、第II因子および第III因子ではともに「至便性」と推定される因子が考えられ、それぞれ「経済性」、「利用性」に分けられる。また、光華短大では、第I因子として「感覚的な技術評価」が、第II因子として「至便性」が現れるが、第III因子の推定因子にははっきりしない。しかし、「感覚的評価」に近いものと推定される。最後に薫英短大においては、第I因子と第III因子にそれぞれ「利用性」、「経済性」の評価が現れ、「至便性」を高く評価していることがわかる。また、第II因子は「技術面の評価」と推定される。

j) 竹製品のイメージに関するフリーアンサーでも、竹林の場合と同様に感覚的な評価が多く認められた。一方、利用面の評価も多くみられたが、肯定的な評価が多い反面、それとほぼ同等の否定的な評価も多かった。否定的評価の多くは、「ケガをしやすい」、「使いにくい」、あるいは「手に入れにくい」等が理由となっている。また、社会人で負の評価の理由の多くを占めた、「製品が高価である」はまったく出なかった。実際に自ら購入する機会がほとんどないことを示していると考えられる。また、特性面の評価に関しても正と負の両面の評価に分れた。この他には、歴史性の評価あるいは、竹林の保護を訴える評価があった。

### (3)食品としての筍に対する意識(表7、34~47)

食品としての筍に関する質問およびイメージ分析のための質問が用意された。各設問に対する回答結果の総括は以下の通りである。

表34. 所属別にみた筍に関する設問に対する回答の比率(%)

|      | 筍は好きか |      |         |         |     | 筍を食べるか |      |       |      | どんな筍をよく食べるか |      |     |       |      | 筍には植物繊維が多いことを |      |         | 筍を食べる季節を感じるか |      |      |
|------|-------|------|---------|---------|-----|--------|------|-------|------|-------------|------|-----|-------|------|---------------|------|---------|--------------|------|------|
|      | 大好き   | 割と好き | どちらでもない | 余り好きでない | 嫌い  | よくよく   | 割とよく | あまりよく | 全くよく | 生           | 缶詰   | 両方  | 季節による | 不明   | 知っている         | 知らない | 言葉を知らない | はい           | 少し   | いいえ  |
| 府大言語 | 20.5  | 47.7 | 13.6    | 13.6    | 4.6 | 6.8    | 45.5 | 47.7  | 0.0  | 61.4        | 29.5 | 0.0 | 0.0   | 9.1  | 61.4          | 38.6 | 0.0     | 54.6         | 31.8 | 13.6 |
| 府大生文 | 30.2  | 48.8 | 7.0     | 9.3     | 4.7 | 11.6   | 44.2 | 44.2  | 0.0  | 65.1        | 23.3 | 0.0 | 0.0   | 11.6 | 72.1          | 27.9 | 0.0     | 65.1         | 30.2 | 4.7  |
| 府大被服 | 39.4  | 36.4 | 9.1     | 9.1     | 6.1 | 15.2   | 51.5 | 30.3  | 3.0  | 51.5        | 33.3 | 0.0 | 0.0   | 15.2 | 57.6          | 42.4 | 0.0     | 48.5         | 39.4 | 12.1 |
| 光華食物 | 28.3  | 46.5 | 14.2    | 9.4     | 1.6 | 7.9    | 47.2 | 44.9  | 0.0  | 55.1        | 35.4 | 2.4 | 0.0   | 7.1  | 79.5          | 20.5 | 0.0     | 53.5         | 38.6 | 7.9  |
| 薫英   | 18.4  | 49.0 | 16.3    | 12.2    | 4.1 | 4.1    | 57.1 | 38.8  | 0.0  | 42.9        | 44.9 | 0.0 | 0.0   | 12.2 | 81.3          | 18.7 | 0.0     | 40.8         | 42.9 | 16.3 |
| 全体   | 27.0  | 46.3 | 12.8    | 10.5    | 3.4 | 8.4    | 48.7 | 42.6  | 0.3  | 55.1        | 34.1 | 1.0 | 0.0   | 9.8  | 73.6          | 26.4 | 0.0     | 52.7         | 37.2 | 10.1 |

\*: 「時期による」という回答あり

- a) 筍の好き嫌いに関しては、27.0%が「大好き」、46.3%が「わりと好き」と回答しており、全体の4分の3が好ましい食品として考えていることが分かる。しかし、府短大言語科、薫英短大を中心に10%を超える回答者が好ましくないというイメージも示しており、これは社会人の調査結果に比べて高い比率となっている(表34)。
- b) 食べる頻度に関しては、「割とよく食べる」回答者が48.7%を占めるが、「よく食べる」回答者は少ない。「あまり食べない」ものも42.6%と多く、前回

- の一般大学生を対象とした調査結果よりも、食物としての筍の一般性が少ない傾向が認められる。
- c) 筍は「生鮮品として食べることが多い」と答えた回答者が55.1%で、今までの調査のなかではもっとも低い値であった。また、「缶詰」をあげた回答者は34.1%ともっとも高い割合であった。この傾向は薫英短大で顕著で、「缶詰」と回答した者のほうが高い比率となった。
- d) 筍の食物としての高い価値の1つである植物繊維の多いことに関しては、「知っている」と回答した者

は73.6%に過ぎなかった。「知らない」者は府短大で多かった。

e) 筍を食べることに対して季節感が伴うかどうかについては、52.7%が「季節感を感じる」と回答し、社会人を対象とした調査結果よりも30%も低い値と

なっている。現在も、筍が旬を感じさせる食物として存在してはいるものの、食物としての一般性の減少とともに、印象が薄れつつある可能性が考えられる。この傾向は薫英短大で顕著である。

表35. 筍掘りに関する設問に対する回答の比率 (%)

|      | 筍掘りの経験は |      | 今後も掘りに行きたい |       |      |
|------|---------|------|------------|-------|------|
|      | 有       | 無    | はい         | どちらでも | いいえ  |
| 府大国語 | 34.1    | 65.9 | 50.0       | 29.5  | 20.5 |
| 府大生文 | 55.8    | 44.2 | 46.5       | 27.9  | 25.6 |
| 府大被服 | 45.5    | 54.5 | 54.5       | 27.3  | 18.2 |
| 光華食物 | 34.6    | 65.4 | 44.9       | 39.4  | 15.7 |
| 薫英   | 34.7    | 65.3 | 24.5       | 61.2  | 14.3 |
| 全体   | 38.9    | 61.1 | 43.6       | 38.5  | 17.9 |

表36. 筍のアク抜きの方法は? (%)

|      | 米糠   | 湯    | その他* | 不明   |
|------|------|------|------|------|
| 府大国語 | 43.2 | 22.7 | 2.3  | 31.8 |
| 府大生文 | 54.7 | 19.8 | 0.0  | 25.6 |
| 府大被服 | 42.4 | 24.2 | 0.0  | 33.3 |
| 光華食物 | 61.8 | 20.9 | 2.4  | 15.0 |
| 薫英   | 65.6 | 24.0 | 0.0  | 10.4 |
| 全体   | 56.4 | 21.9 | 1.4  | 20.3 |

\*その他の自由回答: 重曹、水につける、そのまま(朝掘り)、米を洗った一番始めの濁った水(とぎ汁)

表37. 食べる筍の種類は?

|      | モウソウチク | マダケ  | ハチク | ネガリダケ | その他* | 不明   |
|------|--------|------|-----|-------|------|------|
| 府大国語 | 17.9   | 10.7 | 7.1 | 0.0   | 0.0  | 64.3 |
| 府大生文 | 30.4   | 7.1  | 8.9 | 0.0   | 0.0  | 53.6 |
| 府大被服 | 21.7   | 13.0 | 8.7 | 0.0   | 0.0  | 56.5 |
| 光華食物 | 19.8   | 16.0 | 5.7 | 1.9   | 0.0  | 56.6 |
| 薫英   | 13.0   | 28.3 | 2.2 | 0.0   | 0.0  | 56.5 |
| 全体   | 20.6   | 14.8 | 6.5 | 0.6   | 0.0  | 57.4 |

\*その他の自由回答: わからない(33人)、どの種か考えた事がない

表28. 食べたことのある筍料理(複数選択)に対する回答の内容 (%)

|       | 全体   | 府大国語 | 府大生文 | 府大被服 | 光華食物 | 薫英   |
|-------|------|------|------|------|------|------|
| 煮物    | 94.0 | 97.7 | 95.4 | 97.0 | 93.0 | 89.8 |
| 木の芽あえ | 53.4 | 43.2 | 46.5 | 39.4 | 73.6 | 24.5 |
| 吸い物   | 64.4 | 52.3 | 67.4 | 57.6 | 75.2 | 50.0 |
| 筍めし   | 84.2 | 77.3 | 88.4 | 81.8 | 86.1 | 83.7 |
| 佃煮    | 30.5 | 34.1 | 39.5 | 33.3 | 25.6 | 30.6 |
| さしみ   | 5.4  | 4.6  | 14.0 | 3.0  | 4.7  | 2.0  |
| てんぷら  | 28.9 | 27.3 | 41.9 | 33.3 | 32.6 | 6.1  |
| サラダ   | 3.7  | 2.3  | 4.7  | 0.0  | 4.7  | 4.1  |
| 中華料理  | 72.8 | 65.9 | 79.1 | 60.6 | 72.9 | 81.6 |
| その他*  | 1.0  | 0.0  | 0.0  | 0.0  | 2.3  | 0.0  |

\*自由回答

\*光華食物: 焼きもの、たけのこずし、すきやきの具

f) 筍掘りの経験は38.9%の回答者が持っている。府短大の国語科を除く2学科で高い比率を示しているが、対象が女性であるためか、全体に低い値である。また、43.6%が「今後も掘りに行きたい」と回答しているが、薫英短大では「どちらでも」という回答が61.2%にものぼり、関心がない者が多い(表35)。

g) 筍のアク抜きの方法に関しては、56.4%がもっとも一般的と考えられる「米糠」をあげているが、その割合は全体に低く、前回の一般学生の女性の値よりも低い。「不明」と回答した者も府短大を中心に20.3%存在し、筍を自ら調理する機会そのものが少なくなっていることが類推される。その他の方法として、

重曹、水につける等があげられた(表36)。

h) 実際に食べている筍の種類に関しては、20.6%がモウソウチクと答えており、マダケ、ハチクと答えた回答者も比較的多い。しかし、日頃留意していないためか、全般に不明と答えた回答者がもっとも多い。種類の認識がほとんどなされていないことがわかる(表37)。

i) 筍に対するイメージに関するフリーアンサーでは、食べることによる吹き出物等、身体への影響をあげたものが多く、どちらかというときのイメージが中心となっている(表7)。

j) 食べた経験のある筍料理については、全般に「煮物」(94.0%)、「筍御飯」(84.2%)、「中華料理」(72.8%)として筍を食べたことがあるとした回答者の比率が高い。次いで「吸い物」(64.4%)、「木の芽あえ」(53.4%)の比率が高いが、この2種の料理についてはともに現在地における居住年数が長い回答者において特に比率が高くなっている。これら以外の料理については、全体に比率が非常に低くなっており、大きな特徴は認められないが、「てんぷら」に関しては薫英短大で顕著にその比率が低かった(表38)。

k) 竹林、竹製品と同様に行った筍に関するイメージ評価の分析結果は以下の通りである(表39~47)。

表39. 筍に関する各イメージ次元の評価スコアと被験者属性との相関関係

|       | 所属      | 年齢     | 居住歴   | 出身地   | 家族人数   |
|-------|---------|--------|-------|-------|--------|
| 美味だ   | .070    | -.112  | -.114 | -.003 | -.015  |
| なつかしい | .150*   | -.001  | .097  | .006  | -.063  |
| 健康に良い | .058    | -.045  | -.029 | .106  | -.123* |
| 美容に良い | .032    | .009   | .005  | .007  | -.033  |
| あたたかい | .045    | -.046  | -.015 | -.100 | .020   |
| 安い    | -.112   | .087   | -.012 | -.060 | -.020  |
| 季節的   | .133*   | -.024  | -.024 | .041  | -.014  |
| やわらかい | -.119*  | .043   | -.074 | .092  | .042   |
| 調理が容易 | -.174** | -.121* | -.108 | -.011 | .022   |
| えぐくない | .107    | -.050  | .032  | -.033 | .019   |

\*:有意水準5%未満 \*\*:有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

表40. 筍に関する各イメージ次元間における評価スコアの相関関係

|           | (1)     | (2)     | (3)     | (4)     | (5)     | (6)    | (7)     | (8)     | (9)     | (10) |
|-----------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|---------|---------|---------|------|
| 美味だ(1)    | —       |         |         |         |         |        |         |         |         |      |
| なつかしい(2)  | .327*** | —       |         |         |         |        |         |         |         |      |
| 健康に良い(3)  | .306*** | .342*** | —       |         |         |        |         |         |         |      |
| 美容に良い(4)  | .283*** | .255*** | .640*** | —       |         |        |         |         |         |      |
| あたたかい(5)  | .253*** | .276*** | .217*** | .201*** | —       |        |         |         |         |      |
| 安い(6)     | .010    | .006    | -.061   | .017    | -.017   | —      |         |         |         |      |
| 季節的(7)    | .271*** | .225*** | .255*** | .179**  | .201*** | -.006  | —       |         |         |      |
| やわらかい(8)  | .285*** | .132*   | .111    | .140*   | .231*** | .107   | .217*** | —       |         |      |
| 調理が容易(9)  | .167**  | -.007   | .115    | .108    | .127*   | .195** | .060    | .289*** | —       |      |
| えぐくない(10) | .124*   | .026    | .040    | .174**  | .105    | .066   | -.006   | .116    | .271*** | —    |

\*:有意水準5%未満 \*\*:有意水準1%未満 \*\*\*:有意水準0.1%未満

表41. 所属別の筍に関するイメージ評価の差

|       | 全体    | 府大国語  | 府大生文  | 府大被服  | 光華食物  | 薫英    |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 美味だ   | 1.833 | 1.818 | 1.791 | 1.750 | 1.778 | 2.082 | [1] ● |
| なつかしい | 2.812 | 2.795 | 2.512 | 2.563 | 2.847 | 3.163 | [2] ○ |
| 健康に良い | 2.273 | 2.318 | 2.047 | 2.438 | 2.232 | 2.429 | [3] △ |
| 美容に良い | 2.626 | 2.659 | 2.512 | 2.750 | 2.579 | 2.735 | [4] ▽ |
| あたたかい | 2.586 | 2.535 | 2.605 | 2.469 | 2.592 | 2.673 | [5] □ |
| 安い    | 3.195 | 3.091 | 3.429 | 3.344 | 3.175 | 3.041 | [1] × |
| 季節的   | 1.608 | 1.545 | 1.419 | 1.581 | 1.611 | 1.837 | [2] × |
| やわらかい | 2.469 | 2.477 | 2.698 | 2.813 | 2.349 | 2.347 | [3] × |
| 調理が容易 | 3.055 | 3.273 | 3.422 | 3.156 | 2.848 | 2.980 | [4] × |
| えぐくない | 3.399 | 3.233 | 3.349 | 3.344 | 3.405 | 3.612 | [5] × |

回答の内容はバラつきが大きく、相関関係が明確に高い属性は見出せなかったが、所属においてやや高い相関の傾向が認められた。また、各イメージ次元間の相関についても、「安い」というイメージ次元と他のイメージ次元との相関が顕著に低かった。イメージ次元についてそれぞれの平均得点をみると、「おいしい」、「季節的だ」の得点が高い程度で、全般に得点が中庸に近い値となっている。また、「安い」、「えぐくない」、「調理が容易」では負にかたよった評価であり、「なつかしい」に関しては薫英短大では負にかたよった得点となっている。所属別には、府短大國語科では調理に関係するイメージでやや積極的な評価が、同生活文化科では感覚的あるいは健康に関するイメージでやや積極的な評価がそれぞれ認められる。薫英短大は全体に消極的な評価となっている。全イメージ次元に対する評価結果から因子分析を行った結果は以下ようになる。全体をみると第I因子としては「季節的だ」、「おいしい」等で代表される「食物としての評価」が、第II因子としては「健康に良い」、「美容に良い」で代表される「健康面での評価」が、第III因子としては「調理が容易」で代表される「利用性の評価」がそれぞれ推定される。また、所属別にみると、府短大國語科では、第I因子に「健康面での評価」が、第II因子に「感覚的評価」が推定され、第III因子には「利用性の評価」が現れる。同生活文化科では第I因子と第II因子が入替わり、「感覚的評価」がもっとも説明率の高い因

子となる。同被服科では、第I因子に「健康面での評価」、第II因子に「利用性の評価」、第III因子に「感覚的評価」が現れるが、第I因子に「なつかしい」というイメージが含まれるのが注目される。また、第III因子には「あたたかい」というイメージが強い負の要素として含まれており、食物としての筍に対して冷たいイメージが強いことがわかる。これと第I因子および第II因子が同じ評価となっているのが光華短大である。しかし、第III因子は「利用性」のうちの「価格面でのみの評価」となった。これに対して薫英短大では第I因子に「健康面での評価」、第II因子に「食物としての評価」、第III因子に「利用性の評価」が推定された。以上のように、所属の別によってその評価内容は比較的バラつきがあるように思われるが、「健康面での評価」は必ず認められる。また、「利用面の評価」も比較的よく認められるが、社会人を対象とした調査で認められたような、「価格面」と「調理性」に分れることはなかった。このことから、食物としての筍が若い女性に対しては現実味の伴わないものになりつつあることが推定される。

4. 総括

以上のように、各設問について、分析の結果を述べたが、竹林、竹製品、筍という3つのジャンルに応じて様々な結果が得られた。結果は、各ジャンルにおいて所属によるバラつきが大きいが、これは各所属の回答者数が比較的少なかったことが理由と考えられる。

表42. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (全体)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子         | 第Ⅲ因子         |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 季節的    | <b>0.685</b> | -0.003       | -0.074       |
| 美味だ    | <b>0.597</b> | 0.269        | 0.125        |
| なつかしい  | <b>0.584</b> | 0.311        | -0.116       |
| やわらかい  | <b>0.543</b> | -0.123       | 0.517        |
| あたたかい  | <b>0.541</b> | 0.188        | 0.187        |
| 健康に良い  | 0.163        | <b>0.846</b> | 0.105        |
| 美容に良い  | 0.302        | <b>0.806</b> | -0.012       |
| 調理が容易  | 0.052        | 0.145        | <b>0.749</b> |
| えぐくない  | -0.088       | 0.316        | <b>0.595</b> |
| 安い     | 0.064        | -0.169       | <b>0.528</b> |
| 固有値    | 1.886        | 1.734        | 1.542        |
| 説明率(%) | 36.5         | 33.6         | 29.9         |
| 推定因子名  | 食物評価         | 健康面評価        | 利用性評価        |

表43. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大国語)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子         | 第Ⅲ因子         |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 健康に良い  | <b>0.816</b> | 0.079        | -0.098       |
| 美容に良い  | <b>0.616</b> | 0.257        | 0.161        |
| 季節的    | <b>0.574</b> | 0.009        | 0.105        |
| 美味だ    | <b>0.477</b> | 0.302        | 0.106        |
| あたたかい  | 0.201        | <b>0.836</b> | 0.027        |
| なつかしい  | 0.129        | <b>0.772</b> | -0.071       |
| やわらかい  | 0.100        | <b>0.561</b> | 0.457        |
| 調理が容易  | 0.074        | -0.144       | <b>0.872</b> |
| えぐくない  | 0.420        | 0.150        | <b>0.588</b> |
| 安い     | -0.410       | 0.368        | <b>0.488</b> |
| 固有値    | 2.019        | 1.952        | 1.617        |
| 説明率(%) | 36.1         | 34.9         | 28.9         |
| 推定因子名  | 健康面評価        | 感覚的评价        | 利用性評価        |

表44. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大生文)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子          | 第Ⅲ因子         |
|--------|--------------|---------------|--------------|
| なつかしい  | <b>0.766</b> | -0.107        | -0.097       |
| 美味だ    | <b>0.663</b> | 0.070         | 0.071        |
| 季節的    | <b>0.575</b> | 0.109         | 0.159        |
| 健康に良い  | 0.428        | <b>0.728</b>  | 0.008        |
| 美容に良い  | 0.384        | <b>0.671</b>  | 0.292        |
| 安い     | -0.114       | <b>0.459</b>  | 0.285        |
| あたたかい  | 0.527        | <b>-0.546</b> | 0.187        |
| やわらかい  | 0.267        | <b>-0.570</b> | 0.397        |
| 調理が容易  | -0.064       | -0.048        | <b>0.873</b> |
| えぐくない  | 0.373        | 0.261         | <b>0.693</b> |
| 固有値    | 2.195        | 1.905         | 1.640        |
| 説明率(%) | 38.2         | 33.2          | 28.6         |
| 推定因子名  | 感覚的评价        | 健康面評価         | 利用性評価        |

表45. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (府大被服)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子         | 第Ⅲ因子          |
|--------|--------------|--------------|---------------|
| 健康に良い  | <b>0.814</b> | -0.058       | -0.110        |
| なつかしい  | <b>0.781</b> | 0.082        | -0.046        |
| 美味だ    | <b>0.645</b> | 0.045        | 0.200         |
| 美容に良い  | <b>0.633</b> | 0.222        | -0.408        |
| 季節的    | <b>0.528</b> | -0.348       | -0.063        |
| えぐくない  | -0.101       | <b>0.782</b> | -0.057        |
| 調理が容易  | 0.218        | <b>0.773</b> | -0.115        |
| 安い     | -0.086       | <b>0.676</b> | 0.424         |
| やわらかい  | 0.230        | 0.264        | <b>0.803</b>  |
| あたたかい  | 0.328        | 0.264        | <b>-0.765</b> |
| 固有値    | 2.593        | 1.988        | 1.651         |
| 説明率(%) | 41.6         | 31.9         | 26.5          |
| 推定因子名  | 健康面評価        | 利用性評価        | 感覚的评价         |

表46. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (光華食物)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子         | 第Ⅲ因子         |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 健康に良い  | 0.769        | 0.179        | 0.146        |
| なつかしい  | <b>0.728</b> | -0.156       | -0.050       |
| 美容に良い  | 0.710        | 0.074        | 0.093        |
| 美味だ    | <b>0.627</b> | 0.183        | 0.023        |
| あたたかい  | 0.514        | 0.370        | 0.241        |
| 調理が容易  | 0.205        | 0.734        | 0.087        |
| えぐくない  | -0.086       | <b>0.731</b> | -0.197       |
| やわらかい  | 0.327        | 0.517        | 0.426        |
| 安い     | -0.115       | 0.058        | <b>0.769</b> |
| 季節的    | 0.233        | -0.094       | <b>0.651</b> |
| 固有値    | 2.507        | 1.584        | 1.334        |
| 説明率(%) | 46.2         | 29.2         | 24.6         |
| 推定因子名  | 健康面評価        | 利用性評価        | 価格面評価        |

表47. 筍に関する各イメージ次元における因子分析の結果 (薫英)

|        | 第Ⅰ因子         | 第Ⅱ因子         | 第Ⅲ因子         |
|--------|--------------|--------------|--------------|
| 美容に良い  | <b>0.951</b> | -0.065       | 0.060        |
| 健康に良い  | <b>0.934</b> | 0.099        | 0.010        |
| 美味だ    | <b>0.464</b> | 0.452        | 0.368        |
| やわらかい  | -0.005       | <b>0.845</b> | -0.077       |
| 季節的    | -0.008       | <b>0.790</b> | 0.297        |
| あたたかい  | 0.311        | <b>0.423</b> | -0.379       |
| 調理が容易  | 0.066        | 0.095        | <b>0.690</b> |
| 安い     | -0.077       | -0.105       | <b>0.621</b> |
| なつかしい  | 0.217        | 0.274        | <b>0.516</b> |
| えぐくない  | 0.040        | 0.045        | <b>0.494</b> |
| 固有値    | 2.148        | 1.832        | 1.750        |
| 説明率(%) | 37.5         | 32.0         | 30.5         |
| 推定因子名  | 健康面評価        | 食物評価         | 利用性評価        |

そこで、ここでは所属による違いには言及せず、全体的な傾向を述べて、総括としたい。

竹林に関しては、全体にみたとき、竹林に対して一種の爽快感のようなものを抱いているといえる。また、力強さを感じる者も多く認められる。さらに、竹林が持つ視覚的な単純性や、感覚的な温りを評価する回答も多いが、内容に具体性が少なく、単に質的な評価を行っているのみと思われる評価も認められる。また、一部では、畏怖感や複雑さを伴うものとしての評価も認められ、具体的な体験が伴わない単なるイメージとしてのみの評価が中心となっていることが考えられる。このことは、竹林の減少という状況を把握しているものが少ないこと等からも類推され、竹林の存在が現在の生活から疎遠なものになっていることがわかる。

竹製品に関しても、全体に関係が希薄であることが類推される。イメージ評価の解析結果においても、一部では明確な評価が認められるものの、全体的には漠然とした評価となっていることがわかる。社会人を対象とした調査において現れたような便利さを評価することは少なく、文化の一面としての技術面の高さの評価が第一になる。竹との材としてのつきあいとしては、わずかに遊びの道具として接する機会が認められる程度である。年齢的にもある程度しかたのないこととはいえ、価格面の評価がわずかしこ現れてこないことが、目につく。また、フリーアンサーにおいては、すでに竹製品は日用品たりえないものである、あるいはレトロであるといった記述も見られた。

筍に関しても、ほぼ同様のことがいえる。その回答結果からは、実際に筍の調理に接する機会はほとんど持っていないと考えられ、調理方法、種類の把握等はほとんどなされていない。また、関係が希薄なことにより、筍をよく食べる回答者の割合も少なく、季節感が伴うという回答者も比較的少ない。筍は現在の生活の中では、よく食べられる食物でありながら、なおかつ季節感を与えることのできる、すなわち旬のある数少ない食物の1つと考えられるが、今回の回答者の世代ではこの意識も希薄になっていると考えられる。

以上のように、総括的には、竹というものの存在が、我々の生活の中で疎遠なものになっていることは否めない。この傾向が、特に若い女性を中心とした層で、顕著なことが今回の調査で類推された。しかも、肯定的な動きが認められるわけではなく、どちらかというと無関心派が比較的多い傾向がある。このことから今後の竹というものの在り方を考えたとき、まず彼女らの関心を引きつける策が必要になると思われる。そのためには、身近な植物としての竹の位置付けをより明確にできるような竹林の整備と保全、あるいは若い世代のニーズに応じた竹製品の開発が必要となろう。また、小、中、高、大学の教育期間を通じ、竹について

の教育の機会を多く設けることも今後の課題であろう。  
(1991年8月9日受理)

## 5. 謝 辞

本アンケート調査の実施に当っては、本学短期大部 榊井幹生、光華女子短大田口邦子、薫英短大西村泰子の諸氏のご協力を得た。また京都府立大学竹類文化研究会会員、井上雅晴、高野忠男、橋詰良彦、松本 茂、渡辺政俊の諸氏には種々のご援助と協力を頂いた。ここに記して感謝の意を表します。

## 6. 引用文献

- 1) 細川健次他：「竹」に対する意識についてのアンケート調査  
京都府立大学生生活文化センター年報 14、41～53、1989
- 2) 柴田昌三：概要「竹」に対する意識についてのアンケート調査 一京都市内3地区、一般家庭を対象とした場合—  
京都府立大学生生活文化センター年報 15、21～24、1990